

政治・経済定点観測レポート

ウズベキスタン NOW

【第 28 号:2013 年 9 月－11 月期】

* 本レポートは ROTOBO の協力者である現地専門家の執筆によるものです。内容は執筆者の個人的見解であり、ROTOBO の組織的見解とはいかなる意味でも関係ありません。内容の無断転載、引用は堅くお断りします。

経済概況

2013 年 1～9 月の実績によると、ウズベキスタンの GDP 成長率は 8.1%、工業生産高は 9.4%、農業生産高は 6.8%、小売業売上高は 14.7%、サービス業売上高は 12.4%増加した。公式情報による国家予算の執行結果は GDP 比 0.2%の財政黒字であった。インフレ水準は予測値を超えなかった。政府は固定資本投資総額の伸びを 2012 年比 12.5%、うち外国投資 12.4%と発表している。9 ヶ月間の実績の評価で特に注目されているのは 39.7%となった国産化製品の生産増大であり、40 億ドルの輸入代替効果と計算されている。

権威ある外国機関も、ウズベキスタンの経済成長の見通しに関して高く評価している。アジア開発銀行（ADB）は、ウズベキスタンの 2013 年の GDP 成長率を 7.5%、2014 年のそれを 8%台と予測。ADB は、外国融資および投資、国内融資に支えられた投資プロジェクトの実行ならびに高い国内需要によって経済成長が確保されると考えている。ウズベキスタンの 2013 年のインフレ予測は 9.5%、2014 年は 9%、経常収支は 2012 年の実績が GDP 比 4.7%であったのに対し、2013 年は 4.3%、2014 年は 3.2%まで減少するとされている。ADB は、ウズベキスタンの対外債務は若干増え、2013 年は GDP 比 19.3%、2014 年は 20.8%と予測、インフレに関しては、2013 年は 9.5%、2014 年は 9%のままである。

国際通貨基金（IMF）は、ウズベキスタンの 2013 年の GDP 成長率を 7%、2014 年は 6.5%台という予測を変えていない。IMF はインフレ予測を 2013 年は 12.1%（以前の予測は 10.9%）、2014 年は 10.4%（以前は 11%）に変更した。IMF はまた、2013 年の経済成長の主な要因となったのは、国家の主導による経済の様々なセクターの近代化への大規模な投資だと指摘している。

欧州復興開発銀行（EBRD）は、ウズベキスタンの 2013 年の GDP 成長率の予測を 7.7%に引き上げた（以前の評価は 7.5%）。2014 年の予測は以前のまま 7%である。インフレは、2012 年の 12.1%に対し 2013 年は 11%である。成長の主たる要因として、財政支出の増大および天然ガスを中心とする原料輸出の好況が指摘されている。

上記に加えて、ウズベキスタンは 2010 年より開始した総事業費 750 億ドル、500 件以上の戦略的投資プロジェクトを 2016 年までに実施する意向を公式表明している。この中には工業プロジェクトの他、交通インフラ近代化およびウズベキスタンの中継地としての潜在力の向上に向けたプロジェクトがある。政府の評価によると、これらのプロジェクト実施によって GDP に占める工業の割合を、2012 年の 24% に対し 2016 年までに 28% に高めることが出来る。工業生産高に占める最終完成品の割合は、現在の 41% から 60% になるとされている。

投資政策

国家統計委員会の評価によると、1～9月の固定資本投資額は 19.3 兆スム（89 億ドル）で、うち 63% を工場建設が占めた。2013 年 1～9 月の外国投資額は 18 億 1,200 万ドルであった。そのうち政府の保証付き外国投資は 4 億 820 万ドル（2012 年比 1.3 倍増）、直接外国投資は 14 億 400 万ドル（8% 増）となった。投資総額に占める外国投資の割合は、昨年同様 20.2% であった。外国投資の大部分は交通・通信分野（45.7%）と燃料エネルギーセクター（33.1%）に向けられた。

既報の通り、ウズベキスタンは 2013 年に 151 件の投資プロジェクトに 30 億 2,000 万ドルの外国投資を投入する計画だった。つまり 2013 年の実績として投資計画の実施が遅れていることは間違いなく、その原因は国際金融市場および商品市場のボラティリティだけでなく、現場での投資使用能力、外国のパートナーに対する投資提案準備の品質にもある。

また、2014 年以降ウズベキスタンは大規模な外国投資を誘致するための努力を続けていく。既に中国との二国間関係で一定の進捗が見られ、総額約 200 億ドルの一連の協定が調印された。中でも重要なのは、ウズベキスタン復興開発基金と中国国立開発銀行の間で締結された 2013～2016 年の総額 81 億 5,000 万ドルの投資プロジェクトへの共同資金調達に関する協力協定、30 億ドルのムバルスク・ガス加工工場におけるガス化学プラント建設プロジェクトの共同実施に関する CNPC 社との覚書、バイスンおよびスルハン投資ブロックにおける 15 億ドルの地質探査および炭化水素採掘に関する相互理解覚書である。

その他、習近平国家主席のウズベキスタン訪問の際、トルクメニスタンと中国を結ぶパイプラインの第 4 ルート建設、ガス、オイルシェール、ウラン鉱床の共同開発、2017 年までの二国間貿易高の 50 億ドルへの拡大（現在は約 35 億ドル）、鉄道および自動車道路の整備に関するプロジェクトが話し合われた。また、中国側から二国間のそれぞれの通貨による相互決済の整備に関する極めて重要な提案があった。このように、中国は

ウズベキスタンにおける戦略的投資家、技術提供者および貿易パートナーとしての自国の立場を強化している。

アメリカ企業もウズベキスタン・アメリカ・ビジネスフォーラムにおいて、ウズベキスタンにおけるプレゼンスを拡大する一定の計画を発表した。同フォーラムには、ボーイング、ジェネラル・モーターズ、コカ・コーラ、ジョンソン&ジョンソン、プロクター&ギャンブル等 50 以上のアメリカの大企業が参加した。ウズベキスタンでは、ウズベキスタンに 40 億ドル以上の投資を行うというアメリカ企業の意向が報道された。しかし現在のところより詳しい情報が分かっているのはボーイングとコカ・コーラの計画に関してのみである。ボーイングは、ウズベキスタンにボーイング 787 ドリームライナーを含む自社製航空機の修理保守工場を作る計画である。コカ・コーラは、新製品のジュースおよびアイスティの工場建設に 5,000 万ドルを投じる意向を発表した。

エネルギー・セクター

エネルギー部門での大きな出来事は、**シュルタン・ガス化学コンビナートを拠点とする GTL 燃料生産プロジェクトの実施に関わる債権者会議**であった。同プロジェクトは、事業費 30 億ドルと評価されており、ウズベキスタンはその実施のために外国投資家のコンソーシアムを設立する。工場の設計生産能力は液体燃料で日産 38,000 バレルである。主な加工品は、ディーゼル燃料、ジェット燃料、ナフサ、液化石油ガス (LPG) である。設計生産能力に達するのは 2017 年の予定である。

ウズベキスタンは、**成長する経済における燃料需要を満たすための一連のプロジェクトの実施**を続けている。石油の採掘不足は現在年間約 120 万 t であり、さらに増大する見込みである。2013 年に国内では深刻な燃料不足が数回発生した。

ウズベクネフチェガスの傘下にあるウズネフチェプロダクト社は、2014 年にブハラ石油加工工場を拠点に M85 品種メタノール混合ガソリン（メタノール 85%、無鉛ガソリン 15%）の生産を開始する意向を発表した。新工場の生産能力はメタノール年間 50 万 t となる。2016 年までにブハラ石油加工工場の第二期工事が終了する予定であり、それによって年間 96 万 t のガソリン、70 万 6,000 t のディーゼル燃料、25 万 t のジェット燃料の生産が可能となる。2013 年中に開始予定の事業は 4 億 7,500 万ドルと評価されている。事業の資金調達にはウズベクネフチェガス社の自己資金、外国融資および投資、ウズベキスタン復興開発基金の融資によって行われる。

もう一つの方向は、ナヴォイ州に鉱床のあるオイルシェールを原料とするガソリン等の石油製品の生産である。国営持株会社ウズベクネフチェガスは同鉱床の開発を 2014 年にも開始する意向である。鉱床の一つサングランタウにオイルシェール加工工場を建設するのはロシアのアトムエネルギープロジェクト社である。今 3 年間で、オイルシェール

8 万 t および石油製品 1 万 t の年間生産能力を持つ 8 つの工場の建設が計画されている。計画によると、これらの工場は、韓国、中国、日本、エストニアの企業と共同で建設される。これらプロジェクトの総事業費は約 6 億ドルである。ウズベキスタン国内のオイルシェール総推定埋蔵量は 470 億 t である。

政府は石炭分野の近代化と発展の長期計画を発表した。石炭の採掘量を 2012 年の 385 万 t に対し、2021 年までに 1,720 万 t に増やす計画である。これらの計画は、ディーゼル燃料生産、家庭および熱供給企業の需要（特に天然ガスの代替として）のための石炭利用増大の見込みと一致している。

2020 年までにタシケント州のアパタク石炭露天掘鉱山を拠点とした CTL (Coal to liquid) 技術による石炭を原料とする液体燃料の生産工場を稼働させる計画である。現在ウズベクウーゴリ社は試算価格 7 億ドルの加工工場建設プロジェクトの検討を行っている。この工場は年間 220 万 t の石炭を加工し 70 万 t のディーゼル燃料を生産する計画である。ウズベクウーゴリが、石炭の年間総採掘量を 2019 年までに 220 万 t に増やす（2012 年は 17 万 6,000 t）ため、2014 年にアパルタク石炭露天掘鉱山に新しい採取場の建設を開始するということはすでに報道されている。

その他ウズベクウーゴリは、2013～2018 年の石炭産業の企業の近代化、設備および技術の更新、調和的発展プログラムに含まれる 9 件のプロジェクトのうち 3 件を 2013 年中に終了する計画である。このプログラムの総事業費は 5 億 5,500 万ドルであり、その大部分が既存の石炭採掘企業の生産設備の近代化に投入される。2013 年の 9 ヶ月間にウズベクウーゴリは石炭採掘量を前年同期比で 28.7% 増やし、310 万 2,000 t とした。主な需要者は発電セクター（約 300 万 t）である。専門家の評価によると、ウズベキスタンの現在の年間石炭需要は約 400 万 t である。

ウラン貿易における外国企業との協力が拡大している。新聞報道によると、2014 年にインドがウズベキスタンの 2,000 t を超えるウラン輸入を開始するとのことである。

ウランの採掘、おそらく貿易も 2014 年以降拡大するであろう。ナヴォイ採掘精錬コンビナートは 2013 年末までに中央キジルクムの 3 つのウラン鉱山（アレンディ、アウリベク、北カニメフ、プロジェクトの事業費は約 7,500 万ドル）の建設を終了する計画である。設計生産能力に到達するのは 2015 年と予測されており、それによって地下リーチング技術によるウランの総採掘量を 40% 増やすことができる。ナヴォイ採掘精錬コンビナートが 2012～2013 年に 1 億 2,400 万ドルを投資してウラン採掘量を 3,859 t まで増加させる計画であることは既に報道されている。

自動車セクター

承認済みの計画によると、2013 年のウズベキスタンの自動車工業は 30 億ドルを超える製品を生産する予定である。2012 年の生産高は 28 億ドルであり、2013 年は、24 万 5,000 台の自動車が生産されるとの予測である（2012 年は 23 万 6,200 台）。そのうち乗用車約 15 万 5,000 台は国内市場で販売され（12 万 7,600）、9 万台が輸出される（10 万 8,500）。有限会社サムアフトは 2013 年に 2,800 台の自動車（バス 1,100 台、トラック 1,700 台）を生産する予定である。乗用車の国内市場への供給が増加したのは、主な輸出先のロシアでの販売が落ち込んだことによるものである。2013 年の 9 ヶ月間の実績で売上は 35%下落し、2012 年の同時期に 66,485 台であったのが 43,093 台に減少している。

その他のセクター

2013 年末までにウズベキスタンで第 2 の工業用シリコン生産工場建設が終了する予定。同工場は、アングレン工業特区内に建設されている。工業用シリコンの年間生産能力は 5,000 t である。新工場のための原料はジザフ州の石英産地から供給される。当初この工場は 2013 年の第一四半期に稼働開始する計画だったが、その後 8 月に延期された。総事業費 1,000 万ドルのプロジェクトを実施しているのは、ウズベキスタンと韓国の合弁企業 Uz-Shindong Silicon である。ウズベキスタン国家地質鉱物資源委員会、Shindong Enercom Inc、公開型株式会社ウズメトコンビナート、有限会社 Solartech（Shindong Enercom Inc の子会社）が対等の条件でこの企業の設立者となっている。2012 年 8 月、合弁企業有限会社 Uz-Kor Silicon（Neoplant（韓国）、国家地質鉱物資源委員会、公開型株式会社ナヴォイアゾットが設立）はナヴォイ州で工業用シリコン生産工場の稼働を開始した。同プロジェクトの枠内で、年間石英 39,000 t の採掘と工業用シリコン 12,000 t の生産を行う施設が建設された。

2013 年 9 月 7 日、国営合資会社ウズベキスタン鉄道と中国の XCMG（Xuzhou Construction Machinery Group Co., Ltd）はエクスカベータ製造の合弁企業設立文書に調印した。同企業の生産設備は公開型株式会社ウルゲンチ・エクスカベータの敷地内に配置される。年間 200 台のエクスカベータを組み立てる計画である。投資総額は 1,000 万ドルである。